

2018年1月11日

各位

株式会社 みちのく銀行

株式会社オプティムとの「金融×農業×IT 戦略的包括提携」および
「スマート農業 アライアンス」への参画について

みちのく銀行（頭取 高田 邦洋）は、株式会社オプティム（東京都港区／代表取締役社長 菅谷 俊二、以下、同社）との間で、「金融×農業×IT 戦略的包括提携」を締結いたしましたのでお知らせいたします。

本提携は、地域におけるAIやIoT等の活用を推進することにより、地域の皆さまへさまざまな事業分野における新たなITソリューションを提供するとともに、「金融」分野におけるAI・IoTを活用した銀行業務の効率化を通じた金融サービスの向上を目指す取組みです。

なお、同社と地域金融機関が「金融×農業×IT 戦略的包括提携」を締結するのは東北初となります。

また、本提携第1弾の取組みとして、青森県の基幹産業である第1次産業の更なる発展を図るべく、同社が新たに設立した「スマート農業 アライアンス」へ青森県内の農業者3社とともに参画し、実証実験を行います。

本取組みを契機に、農業分野での作業負担の軽減と効率化を図るとともに、農業収益の向上・稼げる農業の実現に向けて取り組んでまいります。

記

1. 提携内容について

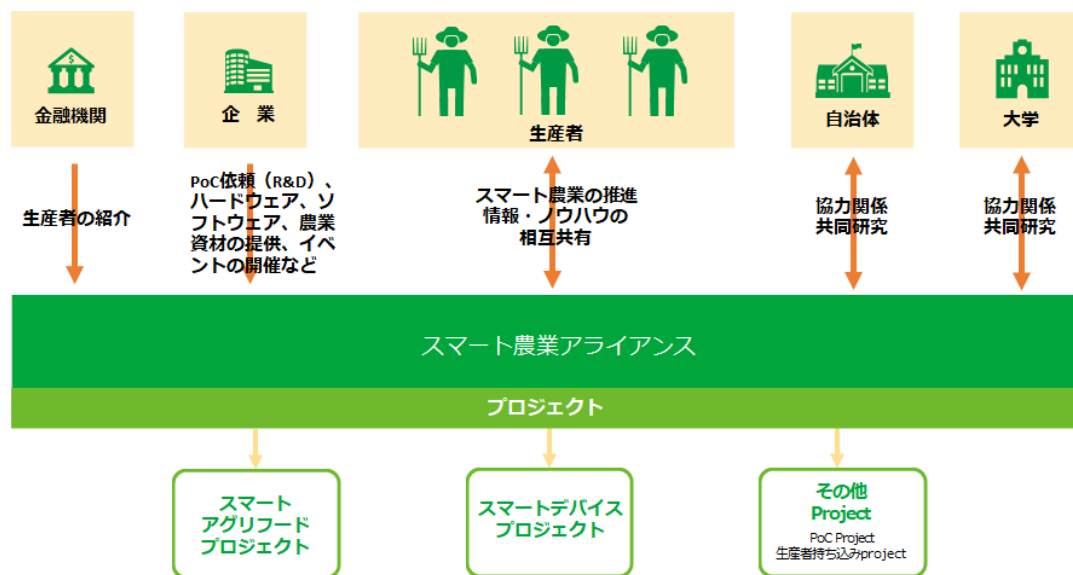
- (1) 締結日 2018年1月11日（木）
- (2) 締結目的 地域におけるAI・IoT等の活用を推進していくこと
- (3) 締結内容
 - ① 金融機関として初の実例である「スマート農業アライアンス」への参画および今後の推進
 - ② 青森県および北海道（函館）の農業者への農業ITサービス提供への連携について
 - ③ 遠隔作業支援ツールを活用した農業者のGLOBALG.A.P.取得支援に向けた連携について
 - ④ その他「農業×IT」分野における事項
 - ⑤ AIを活用したコールセンター支援サービスへの取組み
 - ⑥ AIを活用した音声解析による銀行業務の効率化
 - ⑦ その他「金融×IT」分野における事項
 - ⑧ その他事業分野における新たなITソリューションメニュー提供に関する事項

2. 「スマート農業 アライアンス」について

AI・IoT・ビッグデータを活用して“楽しく、かつこよく、稼げる農業”を実現すべく、スマート農業^(注)を推進する取組みです。

参画事業者	連携内容
有限会社サンマモルワイナリー	農作業記録・GAP取得支援サービス 圃場情報管理サービス
株式会社アグリーンハート	農作業記録・GAP取得支援サービス
株式会社松山ハーブ農園	農作業記録・GAP取得支援サービス

<スマート農業アライアンス概要>



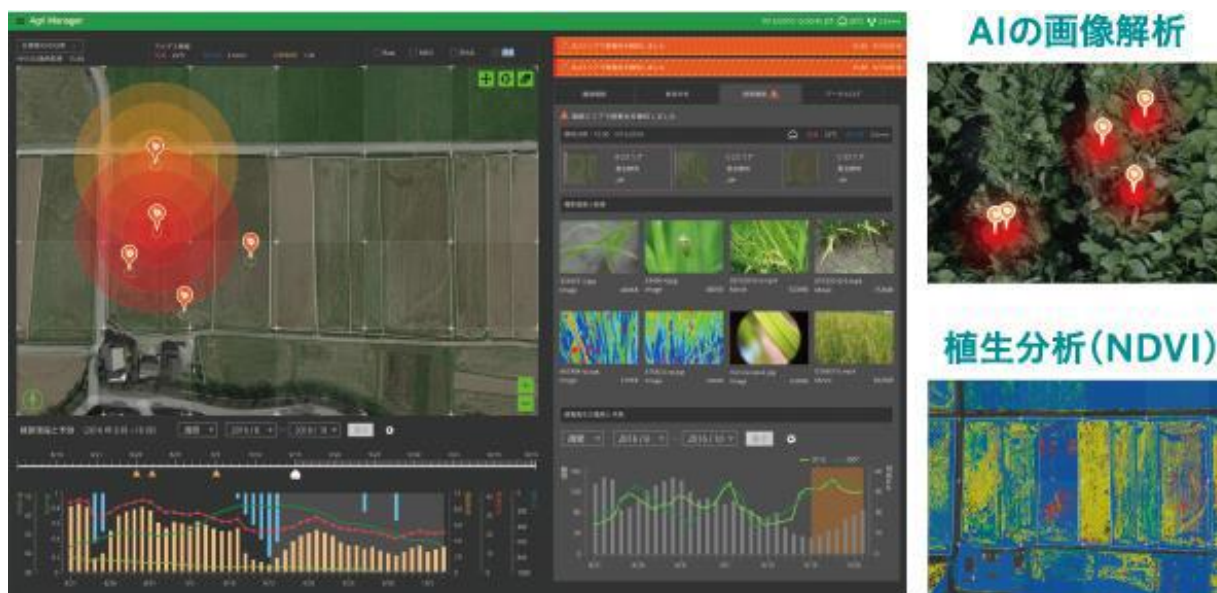
(注) スマート農業とは…

AI・IoT・ロボットなどの最先端技術を農家で活用し、農作業の負担軽減や、農産物の収量、品質の向上を目指す新たな農業のこと。

<OPTIM スマート農業ソリューション>概要

(1) 圃場情報管理サービス「Agri Field Manager」

露地栽培された作物を管理・分析を行うサービスです。本サービスでは、ドローンやスマートフォンで撮影した圃場や農作物の映像や画像をAIが分析することにより、病害虫の検知や発生予測などが行え、効率的に作物の生育管理を行うことができます。



(2) ハウス情報管理サービス「Agri House Manager」

ハウスなどの建物内で栽培された作物を管理・分析を行うサービスです。施設内に設置されたセンサーが集計したデータと、陸上走行型ロボットの側面に装着したスマートフォンで連続撮影を行った画像データを、AIを用いて分析し作物の収量予測（個数カウント、収穫適期判定）を行います。



(3) ロボティクスサービス

位置情報を含む分析用の画像データ収集をさまざまなドローンやロボットを提供するサービスです。

固定翼ドローン
OPTiM Hawk



マルチコプタードローン
OPTiM Agri Drone



陸上走行型ロボット
OPTiM Crawler



(4) 農作業記録・GAP取得支援サービス「Agri Assistant」

作物の生育過程の記録を行うサービスです。本サービスは、スマートデバイスやイヤラブル（耳装着型）端末などに対応しており、GAP取得に必要な農作業情報をスマートフォンやタブレット、パソコン、どこからでも共有・確認することができます。

JGAP

日本GAP協会推奨システム

施肥管理(土壌管理)

土壌診断の結果を踏まえた肥料の適正な施用や、都道府県の施肥基準やJAの栽培層等で示している施肥量、施肥方法等に則した施肥を実施。

ドローンやセンサーからの
土壌分析

肥料設計情報

農業管理

無登録農業及び無登録農業の疑いのある資材の使用禁止。
農業の使用残が発生しないように必要な量だけを秤量して散布液を調整。

バーコード読み取り/
自動DB参照/農業残量取得

農業情報の自動取り込み



情報の記録・保管

圃場の位置、面積等に係る記録を作成し保存。
農業や肥料の使用に関する内容を記録し保存。
出荷に関する記録の保存。

音声入力/作業記録/
画像

作業ログ情報

病害管理

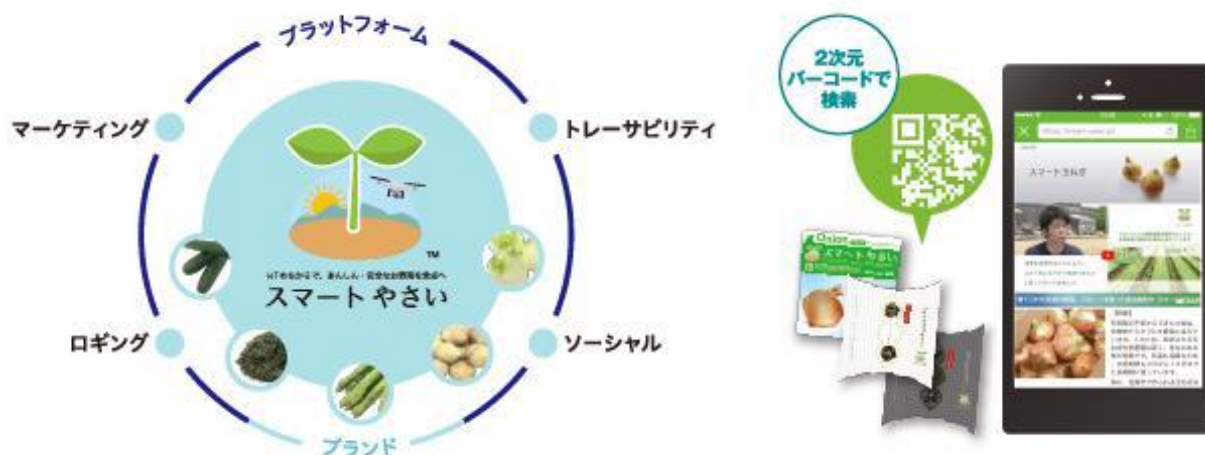
発生子察情報の利用などにより病害虫の発生状況を把握した上での防除を実施。

ドローン空撮画像から
病害虫の発生予測

病害情報の自動取り込み

(5) スマート野菜

AI・IoT・ロボットにより生育過程がトレースされた野菜ブランドです。トレーサビリティ情報として、トレーサビリティプラットフォーム「アグリブロックチェーン」に管理されている情報（生育作業履歴、流通履歴、資材調達履歴など）を利用しています。情報の改ざんが困難なブロックチェーン技術を利用したトレーサビリティ情報が確認できるため、安心・安全かつ高価値な野菜提供することができます。



(6) アグリブロックチェーン

同社が保有するブロックチェーン技術を活用したトレーサビリティプラットフォームです。生育作業履歴、流通履歴、資材調達履歴などの情報を、分散型DBで共通管理することにより、「オープン」「高効率」「高信頼」なサプライチェーンを実現します。



以上